

# 黒潮町のイメージアップを！

## 企画書を作成中／町長



と、顧客が勝手にブランド化してくるものがある。どちらにおいても地域でおこなうブランド化はイメージというものが大きな材料のひとつになるのは言うまでもない。

現在、黒潮町の特産品開発は、商品開発だけに力が入っているように思われるが、本来なら地域のイメージ作りが先行していかなければならない。大切なものが中途半端に置き去りにされているように見える。黒潮町には良いイメージを与える材料は豊富にある。もちろん自然はいうまでもないが、作り上げてきたものもある。どちらも、放って置けば、良いイメージは薄れてくる。そういったイメージを高めることが、特産品にも大きな影響を与えると思う。

黒潮町のイメージをどう作り上げ、どのように生かして

いくか。また、商品のブランド化との関係をどう結び付けて行く考えか。

答

大西町長

森下 産業推進室長

第一次黒潮町総合振興計画のシンボルプロジェクトとして掲げている、黒潮印の商品開発に基づいて事業に取り組んでいる。

商品開発のコンセプトについては、黒潮のネームバリューと南国の海、里、山で取れる良質で豊富な第一次産業の生産物を生かし、これからの10年間で黒潮町産品ブランド、黒潮印の商品を確立する。また、黒潮町「さしすせそ計画」として、安全で質の高い基本調味料と組み合わせた、地域資源の高付加価値化を図り、町内の製造業、卸売業、直販店、宿泊業などの連携事業を展開し、それぞれの分野での活性化を図っていく。

安全、クオリティ、オーガニック、ベーシックなどのキーワードを基に黒潮印の商品を生産するプロジェクトの推進を基本にしていく。これらのコンセプトを基に、現在は委託をしているコンサルタントと内容を協議しながら、黒潮町のイメージ作りや商品の

ブランド化へ向けての戦略的な企画書を作成中である。この企画書を基に、今後、イメージ作りや商品のブランド化へ向けて取り組んでいく予定なので、質問の事項についてはもう少し時間をいただきたい。

問

地域ブランドの定義は、地域の魅力と地域の商品とが互いに好影響をもたらしながら良いイメージ、評判を形成する無形の資産であり、すなわち地域に対する消費者からの評価とインジケータになっている。

特産品開発も地域ブランド化の一つであるが、その特産品を生かすためには、まず、この地域のイメージアップが重要なポイントになる。

ブランド化には、誰もが認める商品を開発していくもの



地域産品加工施設(黒潮工房(仮))の工事現場 (入野早咲地区)